



令和3年5月14日(金)、本校では体育祭が行われました。

開会式後の応援合戦。歴史と伝統ある応援団の力強い応援に、体育祭の雰囲気は、否が応でも盛り上がります。続く徒競走では、一人一人の全力の走りに、惜しめない声援が寄せられました。そのあとは、学年ごとに学級対抗となる長縄、学級対抗リレーが続き、各クラスの団結がより深まりました。

そして、ここからは全校生徒の団結を示す、女子マスゲーム、男子ソーラン節へ。

女子のマスゲームは、音楽に合わせた一糸乱れぬ演技に目を奪われました。カラフルなポンポンが、グラウンドに花を咲かせ、美しい花園が出来上がりました。

男子のソーラン節は、力強くしなやかな演技が徐々にその迫力を増していきました。全身を使った動きから、グラウンドに、波が、海が見えました。

花中生の気持ちが一つに重なる中、最後の紅白リレーで体育祭の雰囲気は最高潮を迎えました。閉会式での、生徒一人一人の満足した顔が、とても印象的でした。



コロナ禍の中ではありますが、生徒と教職員が力を合わせて創り出した最高の体育祭。今回は、そうした素敵な体育祭をリードしてくれた正副実行委員長と紅白応援団長の言葉を、学校だより「花園」No.4(令和3年5月25日発行)から転載します。

体育祭実行委員長から

僕はスローガン通り全校生徒の皆さんに楽しんでもらえるような体育祭を作ること为目标に取り組んできました。僕自身1年生の時は紅組だったのですが、残念ながら負けてしまいました。また学年順位も最下位で、結果は最悪でした。しかし、すごく楽しかったのも事実です。いつもは静かな人も含めて、全員が気持ち良く笑っていました。僕が実行委員長となり、楽しめる体育祭を作りたいと思ったのはこれが理由です。

結果はN君が率いる紅組が優勝し、僕のクラスも優勝できました。今年は「勝つ」ことで僕は楽しみました。負けてしまった白組の皆さんも精一杯応援を頑張っていたのが印象的です。朝礼台から見た皆さんの笑顔で、体育祭の成功が感じられました。1、2年生の皆さんは次の体育祭も全力で楽しんでほしいです。

体育祭副実行委員長から

中学校最後の体育祭、私は心から楽しむことができました。私が印象に残っているのは徒競走です。懸命に走っている仲間に対し、全力で声を出して応援する姿が多く見られました。私はこれを見て、「走っている人と応援している人が一緒になって、勝利を目指しているんだな。」と思い、体育祭のスローガンである「一緒懸命」が達成できたように思いました。

また、結果発表が終わった後、勝利を掴んだ紅組からは、「勝てて良かったね!」と笑顔で喜ぶ声、負けてしまった白組からも「負けちゃったけど、楽しかった!」と笑い合う声を聞いたとき、体育祭を成功させられたんだという喜びと、達成感を感じることができました。私は中学校最後の体育祭を、この令和3年度の体育祭副実行委員長として終えることができ、本当に良かったです。ありがとうございました。

紅組応援団長から

まずは皆さん、お疲れ様でした。体育祭はどうでしたか？私は人生で1番感銘を受けた体育祭でした。それは努力したからこそ得られたものだと思います。応援団は短い期間の中でも、とても中身のある練習をしてきました。一部の人は練習時間が終わっても、練習を続けていました。そして本番。応援合戦から始まり全てが終わった後は、疲れよりも先に達成感と感動が感じられました。閉会式の成績発表では涙が出そうになり、堪えるのが大変でした。ですが、努力をしたのは私たちだけではなく、実行委員や、生徒の皆さんも同じです。この中の一人でも欠けたら美しく、そして輝いている体育祭にはなりませんでした。

これから先、努力する場面が多くあると思います。ですがここまで素晴らしいものを作り上げた私たちなら努力を惜しまず、全力を尽くせると思います。良い経験ができました。

白組応援団長から

僕が応援団長を通して感じたことはたくさんあります。学校だよりの紙面では語り切れませんが、1つ共有したいと思います。新型コロナウイルスの影響で規模縮小となり、様々な競技がなくなったり、保護者の観戦ができなくなったりと、少し落ち込んだ人もいたのではないのでしょうか。そんな雰囲気を通り切る、そんな思いで始まった応援団でしたが、練習回数も少なく、不安が増す一方でした。しかし、限られた練習でも応援団内で協力し合い、とても良い応援団、体育祭になったと思います。僕一人の頑張りでは、こんなにも楽しく、やりがいのある体育祭にはならなかったと思います。応援団、実行委員、協力してくださった先生方に感謝をし、新たな世界で新たな一歩を踏み出していきたいと思っています。ありがとうございました。

